

会議録

会 議 名		令和 7 年度(2025 年度)第 3 回八王子市文化芸術振興評議会
日 時		令和 7 年(2025 年)7 月 28 日(月) 午後 6 時 00 分～7 時 55 分
場 所		学園都市センター 12 階 第5セミナー室
出席者	評 議 員	垣内座長、川崎副座長、酒百評議員、村松評議員、甘麻評議員、山本評議員、伊藤評議員、香川評議員、中島評議員、庄田評議員
	事 務 局	真辺市民活動推進部長、南部学園都市文化課長、煤津主査、高橋主事
欠 席 者		なし
議 題		第 2 期八王子市文化芸術ビジョン施策の体系(案)、骨子(案)について
公開・非公開の別		公開
傍 聴 人 の 数		-
オブザーバー		1 名
配 付 資 料		〔配付資料〕 次第 資料 1 施策の体系(案) 資料 2 第 2 期八王子市文化芸術ビジョン 骨子(案) 資料 3 前回の評議会での意見の反映状況 資料 4 市政モニターアンケート調査票
議事内容		
議題 第 2 期八王子市文化芸術ビジョン施策の体系(案)、骨子(案)について		
事務局	・ 議題について、資料 1 から資料 2 に沿って説明 ・ 資料 3、資料 4 について説明	
評議員	事務局から、資料 1 により「第 2 期八王子市文化芸術ビジョン」の考え方について、資料 2 によりビジョンの構成や掲載する事項等について説明があった。 また、市政モニターを対象にしたアンケートを 8 月中に実施するということで、資料 4 のとおり設問案についても説明があった。 皆様から、それぞれ意見を伺いたいと思う。	
評議員	計画の実効性を確認するため方向性ごとに指標を設定していること、年齢や障害の有無など関係なく誰でも文化芸術を楽しめるような多様性について考慮していること、他分野との連携について言及していることなど、第 1 期の文化芸術ビジョンとの違いが示されている。 行政の計画では、どうしても理念が重視される傾向があるように思う。担い手育成や他分野との連携を進めていく体制や企業・NP0・大学等との連携につい	

	て、具体的にどう取り組んでいくか、今後、詰めていく必要があると思う。
事務局	具体的な取組内容については、素案を作成する際に記載をする予定である。連携の部分については、（公財）八王子市学園都市文化ふれあい財団（以下「財団」という。）がノウハウやネットワークがあるため、その力も借りながらいろいろな主体との連携を進めていければと思う。また、本課は文化芸術の振興のほか、学園都市づくりについても所管しており、大学との連携を進めているので、その強みも活かしていきたいと思う。
評議員	資料2「第2期八王子市文化芸術ビジョン 骨子（案）」（以下「骨子（案）」という。）のP33で「ビジョンの推進にあたって」という項目があるので、そこに実効性のあるスキームであることが示せればよいと思う。また、P34の推進体制の図について、連携する様々な主体が記載されているが、各主体が相互にどう連携するのかなど、もう少しわかるような内容とするとよいと思う。事務局として、例えばこのように連携をしようと考えているなど、具体例があれば伺いたい。
事務局	例えば大学連携については、大学コンソーシアム八王子という学園都市づくりの中心的な役割を担っている組織がある。同組織では、学生が地域課題の解決に向けたアイデアを市に提案する事業や、学生に八王子市についてPRする動画を作成してもらい表彰する事業があるので、そこに文化芸術を絡めた取組ができれば良いかと思う。
評議員	やはり事例があるとイメージしやすいと感じる。 素案では、具体例が盛り込まれていくものと思う。
評議員	前回のビジョンとの違いがわかりづらいと感じたので、もう少し整理するとよいと思う。 ビジョンを策定するにあたり、 1 ビジョンを、広く市民にどう伝えていくか 2 ビジョンの内容を誰でも理解でき、また身近に感じてもらえるものにするという点も大切だと思う。 1点目については、八王子は市域が広く一気に伝えるのは難しいため、地域でのイベントなどを活用してビジョンについて発信すると良いと思う。 2点目については、普段から文化芸術に触れていない市民にも伝わるように、ビジョンに取組例を記載するなど、わかりやすくしていくのが良いと思う。 また、文化芸術に触れていない人への取組と併せて、すでに文化芸術に携わっている人への働きかけも必要と思う。
事務局	資料1「施策の体系（案）」の下記に「第2期八王子市文化芸術ビジョン」の「施策の方向性」と「主な施策」を記載しているが、さらに「取組例」を追記した形で素案を作成しようと考えている。より実行性を高められる内容として考えている。

評議員	方向性 1「ささえる」の指標として、「ホールの利用率」を挙げているが、第 2 期ビジョンでは「身近な場所で文化芸術に触れられること」を挙げている点を踏まえ、ホールに限らず、文化芸術活動を行うことができる施設全般の利用状況を指標としたほうがよいように感じた。 自身が書道部に所属しており、八王子市学園都市センターのギャラリーホールで展示を行うことがある。そうした施設の利用率も含めた形で指標とすることは有効と思う。
事務局	芸術文化会館や南大沢文化会館にも作品を展示できる施設がある。ホールだけでなく、文化芸術活動を行うことができる施設の利用率を指標とすることを検討したいと思う。
評議員	第 2 期ビジョンの方向性について、概ね良いと思う。 方向性 2「そだてる」について、多くの団体で後継者不足に頭を抱える状況が見受けられる。少し伝統文化の活動に寄った意見になるかもしれないが、活動の担い手を育成する施策はもちろん必要だが、文化芸術に興味がある人を引き込むことができる施策があるとさらに良いと感じるし、安心できる。 また、指標を「日頃から文化芸術に触れている人の割合」としているが、「文化芸術に触れて”みたい”人の割合」も取れるとよいのではないかと考える。
評議員	伝統文化の継承に向けた有効な手立てについて、何かお考えがあれば教えてもらいたい。
評議員	個々の団体と市で連携をすることが必要と思う。とにかく、文化芸術を体験できるイベントや講座などを企画・実施していくことが大切と感じる。
評議員	東京都の文化芸術振興施策である「東京文化戦略 2030」において、「アーティストや芸術文化団体等が継続的に活動できる仕組みをつくる」と記載しているものの、具体的にどう行うのかという部分があまり記載されていない。 第 2 期の文化芸術ビジョンでは、推進体制で示されているように、色々な主体との連携を大事にしていくと思うので、そうした取組も合わせて記載できると良いと思う。
評議員	方向性 2「そだてる」について、後継者不足という話があった。ほかにも、少子高齢化や、最近では物価高が活動に影響している面もある。子どもに文化芸術に触れさせてあげたいと思っても、あまりお金がかけられないといった経済的な問題もあると思うので、安価に気軽に体験できる機会などを通じて、結果的に将来を担う子どもと文化芸術活動団体がつながることができるのではないかと考える。 また、方向性 3「つたえる」に関連して、広報はちおうじや市のホームページを見ない人が増えているように思う。中には文化芸術に興味を持っても、ホームページなどにアクセスできない人もいる。どうやったらアクセスしやすくなるか、また情報にアクセスできない人たちに、どう伝えていくかといったことを取組として検討する必要があるように感じる。 ビジョンであり、大きな目標が書かれているため漠然としてしまう面もあるが、もう

	少しスモールステップを踏んでいけるような、小さな目標・取組などを定めて、そこを達成していくと気づいたら大きな目標を達成しているというような体系にしても良いのではないかと思った。
評議員	資料 2「骨子(案)」の P34 の「施策の推進体制」について、連携する主体の一つとして「幼稚園・保育園」があっても良いと思った。子どもが自ら文化芸術に興味を持つことはなかなか難しいと思うが、親がきっかけを与えることはできると思う。情報発信など、幼稚園・保育園とも連携して行えると良いのではないか。 また、資料 1「施策の体系(案)」の方向性 1「ささえる」の指標について、映画館やライブハウスなどの利用率も含めて指標にできるとよいのではないかと思った。
評議員	ビジョンでは「ささえる」や「こたえる」など誰でもわかりやすい言葉でまとまっているのが良いと思う。ただ、言葉がどうしてもフワッとしている部分があるので、人によっても解釈が変わってしまうのではないかと感じる。もう少し具体的にできるとよいと思う。 以前の会議でも聞いたかもしれないが、このビジョンは広く市民に共有するものなのか、それとも文化芸術活動に携わる関係団体の中で共有できていけば良いのか、どちらを想定しているのか。
事務局	ビジョンは皆さんに知ってもらいたいが、日常生活の中で、市の個別計画について意識する機会は少ないと思う。ただ、八王子市が文化芸術の振興のために、どういう方向を目指しているかについて、市民に知ってもらう努力をしていかないといけない。
評議員	広く知っていただきたいということであれば、このビジョンで目指していく姿を市民も含めて「みんなで達成しよう」と投げかけをして、自身に関わることに意識してもらうとよいと思う。 また、ビジョンにキャッチコピーを付けてみたり、ビジョンを身近に感じてもらえる親しみやすいサイトを作ったり、文化芸術体験に関するスタンプラリーを企画するなど、仕掛けてみるのも面白いのではないか。親しみやすいサイトの中で、様々な文化芸術の動画が見られれば、気軽に文化芸術に触れるきっかけになると思う。 方向性 4「こたえる」の指標について、将来像で「文化施設のみならず、身近な場所で質の高い文化芸術に触れることができます」とあるが、指標は「主要文化施設 3 施設の利用者数」としており、違和感を覚える。例えば、先に挙げたようなサイト内のスタンプラリーの達成率や、先日行われた、多摩地域の伝統文化に触れられるイベント「伝承のたまてばこ」の参加者数でも良いのではないかと思った。 映画を見に行くと、本編の前に予告編を目にするが、それがきっかけで続けて映画館に足を運ぶことがある。八王子市の文化芸術についても、前述したサイトで、これまで目にしなかった文化芸術に触れることで、同じような効果を生み出せると面白いのではないかと思った。 紙媒体の周知用チラシも有効と思うが、友人に共有する際は写真に撮ってシェアすることが多いので、それを考慮するとやはり多くの人たちに広く発信できるのがデジタルの強みと思う。デジタルでの周知方法の 1 つの手段として、文化芸術を発信で

	きるサイトがあると良いと思った。
評議員	行政が計画を作る際に、副題やキャッチコピーを付けることがあり、計画が目指す姿を簡潔に伝え、あるいは親しみやすいものとするといった狙いがある。 こうしたことも検討しても良いのではないかなと思う。
評議員	ビジョンについては、大まかには良いのではないかなと思う。 一方で、5つの方向性について、似通っている部分もあるのかなと感じた。 また、文化芸術に元々興味のある人は引き込みやすいが、興味のない人を引きつけるのに難しさを感じる。子どものうちから文化芸術に触れられる機会をつくり、興味を持ってもらう仕掛けが必要ではないか。子どもから親にイベントのチラシを渡すことで、文化芸術に触れるきっかけになることもある。そうしたところから、あまり文化芸術に興味ない人にアプローチできると良いと思う。 現在の商工会議所の会頭は、伝統芸能を守ろうという思いが強い。そのため、自治体だけではなく、企業の立場からも文化芸術に触れられる機会をつくっていいかなと思う。今年の3月に、八王子車人形や八王子芸妓衆などに協力してもらい、東京都の補助金を使って、八王子桑都千景「創作新内浄瑠璃」を開催した。物語の中に八王子の伝統芸能を詰め込んだ舞台となっており、ばらばらに活動している伝統芸能を1つにまとめて市民に発信できたのはとてもよかったと感じている。
評議員	連携し、広がりをもって、市民の方々に伝統芸能の魅力を発信した事例と思う。第2期文化芸術ビジョンでは、連携や伝えるといった要素が散りばめられているので、もう少し明確に打ち出すと良いと思う。
評議員	市民一人ひとりが、文化芸術の担い手になれる可能性があるということをもっと打ち出せるとよいと思う。市内には、18の市民センターがあり、そこでは市民センターまつりが開催されている。市や財団が主体となるものもあるが、市民が中心となって様々な展示や催しを行っている。市民が協働し、何かを行うというのも文化芸術の魅力の一つと思う。市民センターなどのコミュニティ施設は「新たな自分に出会える場所」だと思っている。様々な活動に触れ、そこで自分自身知らなかった可能性に気づくことも多くある。今まで文化芸術に関心がなかった人も気づいたらその担い手になるということは大いにあり得る。そうした文言をビジョンの中に盛り込めると良いのではないかな。 東京都中央区では、ホールや会議室などの貸し出し機能が充実しており、興味を持った人が気軽に借りられる。八王子市は人口に対して、施設が少ないように思う。特にホールについては、市民センターでは北野くらいしかない。新たなハードの整備は難しいと思うが、市民センターの機能を充実させることも文化芸術が身近になるきっかけになるのではないかな。
評議員	ハード面の充実というのはなかなか難しいかもしれないが、方向性5「ひろげる」で記載しているように、多様な主体との連携に、市民センターでの取組を含めると、さらなる広がりにつながるのではないかな。

評議員	資料 2「骨子(案)」の P34 の推進体制の図について、中央に現在「文化芸術がもっと身近になるための5つのこと」と記載されている。コアの部分には目指す姿があり、それを達成するための5つの方向性や、多様な主体の連携が示されているべきと思う。 資料 1「施策の体系(案)」について、大前提として課題があり、それを解決した先に将来像がある。その将来像に達するための手段が施策になると思うが、この考えで資料 1 を見たとき、方向性ごとに以下の点が気になった。 1 方向性 1「ささえる」について (1) 将来像を「創作活動を行っています」としているが、これは本当に「ささえる」の将来像なのかわかりづらいように思う。 (2) 施策の方向性の大体が文化芸術活動をするための「場づくり」に関することだが、それが果たして「ささえる」ことになっているのかイメージがしづらい。 (3) 施策が「場づくり」中心であることから、指標をホールの利用率としており、全体的にわかりづらくなっている。 (4) 八王子市の考える「ささえる」とは何か、再度検討する必要があると思う。 (5) お金の話が抜けていると感じる。市が補助金を出すというのは難しいと思うが、例えば、映画館で半券をお店に持っていくと割引が受けられるみたいなことができるか良いのではないかと思う。ただ、それを行うには、1 つの主体がやろうと思ってもできないので、例えば商工会議所みたいな、プラットフォームを活用し、連携をすることでなし得るのではないかと思う。最近では、生演奏するようなレストランが増えており、お店としては演奏により良い雰囲気になり、演奏者としては発表の機会に繋がり Win-Win の関係性を築ける。そういったことを支援するのが「ささえる」なのではないかと考える。 (6) (5)のようなことを考えると、指標は「様々な主体の連携の度合い」や「マッチング件数」などになってくるのではないかと思う。 (7) 施策の方向性 4 で「支援者」という言葉が出てくるが、これは方向性 1 の支えるとは別物なのかよくわからない。 2 方向性 2「そだてる」 (1) 将来像の「担い手となっています」というのは、「担い手が増えている」ということなのか。解釈を整理した方が良いと思う。 (2) 指標は「文化芸術に触れている人」の割合ではなく、「文化芸術をやっている人」の割合としないと整合が取れないのではないか。 3 方向性 3「つたえる」 (1) 将来像は「興味を持っています」ではなく、「興味を持っている人が増えている」ということだと思う。 (2) 指標を「文化芸術が八王子の魅力だと感じている人」の割合としているが、文化芸術の魅力を発信した結果、それが伝わったかどうかという指標になっており、情報量だけではなく、その質もしっかり追っていかないといけないので、少し指標としては大変なのではないかと感じる。 4 方向性 4「こたえる」 (1) 将来像は「質の高い文化芸術を観・聴しています」ではなく、「観・聴きする場所を増やす」、「観・聴きする人を増やす」といった内容の方が適切なのではないか。
------------	---

	(2) 「ささえる」の指標は文化施設の利用率としているが、「こたえる」では割合ではなく人数になっているだけではないか。 (3) 文化芸術を観・聴きできる「場」について中心的に捉えているが、デジタル空間についても考慮した方が良いのではないか。 5 方向性 5「ひろげる」 (1) 将来像は「文化芸術を活用しています」ではなく、「文化芸術を活用し、まちが賑わっています」のような表現の方が適当ではないか。 (2) 将来像を(1)のようにした場合、指標が「八王子を他人に勧めたい人の割合」では少し繋がらなくなってしまうように感じる。例えば、八王子市への来訪者数などでも良いのではないかと思う。
評議員	今回のビジョンのポイントは、「身近」、「連携」と理解している。 方向性を 5 つ挙げているが、それぞれの方向性が多少重なっているところはあるが、重複していても良いと思う。資料 2「骨子(案)」の P34 の推進体制の図のように、身近な主体が連携し合って事業を進めていくことと思うが、「企業等」という中には商工会議所や商店街なども入ってくる。川崎副座長が言っていたような、映画の半券で割引するような取組はほかでも行われている。その多くは商店街単位で行われていることから、商店街を巻き込むという視点は重要と思う。身近な場所で文化芸術に触れられるようにするには、文化施設だけでは難しいため、市民センターなど地域の方々と連携しながら行っていくことが求められると考えられる。 資料 1「施策の体系(案)」について、方向性ごとにコメントしたい。 1 方向性 1「ささえる」 (1) 市が主体となって文化芸術振興に取り組むという意思表示と理解している。そのため、施策の方向性について場づくりや環境づくりといった言葉が多く見受けられるのかなと思った。 (2) 公立文化施設の利用率を指標として挙げている点は、文化芸術活動を行う場は八王子市が提供するという意図なのかなと感じた。 (3) 主な施策の最後のところで「地域の様々な場所」と記載があるが、ここはどこまで広げるのかということを検討する必要がある。(公的施設の中で広げるという意味なのか、民間のライブハウスなども入るのかなど。) 2 方向性 2「そだてる」 (1) 指標の「文化芸術に触れる」の「触れる」というのがどのような状態を示すのかわかりづらいように感じた。 (2) 施策の方向性で文化芸術活動の「支援者」を育てる視点に触れている点は良いと思った。スポーツの分野では「観る、する、ささえる」が一体的に取り組まれているが、文化芸術の分野ではささえるの部分までなかなか及ばないので、こうした計画に盛り込まれている点は良いと感じた。 3 方向性 3「つたえる」 情報発信から情報拡散の時代になってきている。そのため、市からの情報発信だけでなく、多様な主体から情報拡散してもらえるような取組ができると良いと思う。(例えば、公演の最後は写真撮って、SNS で拡散してもらえるといったような規制緩和を行うなど。) 4 方向性 4「こたえる」

	(1) 八王子市としてできることとして、文化施設の管理等がどうしても中心になってしまうのかなと感じた。 (2) デジタル空間については、権利の問題などもあり、難しいところが多いかと思われる。今日の行政課題としては、デジタルアーカイブの構築があげられる。八王子市では、新しく「歴史・郷土ミュージアム」ができるようだが、どこまで資料をアーカイブ化し活用していくのか検討する余地があると思う。 5 方向性 5「ひろげる」 (1) 交流人口を狙っていくものと認識した。 (2) 背景のところで産業観光という記載があるが、どんなものなのかがよくわからなかった。 (3) 指標については、「交流人口がどのくらい増えたのか」なども 1 つかと思う。現在案として提示している指標は、八王子市の魅力に感じ、その結果八王子に人を呼び込みたいという趣旨なのかと思うので、そういう意味であればよいのではないかと思う。 (4) 指標は、それぞれの方向性の取組を客観的に評価するためのものであるため、複数あっても良いのではないかと思う。 ここまでのご意見を総括すると、 1 施策の体系(案)の大まかな構造については合意が得られた 2 「ささえる」の書き方については検討が必要 3 施設の整備等は「こたえる」でよいのか検討が必要 の 3 点があるかと思う。2 と 3 については、説明で理解してもらうというのだと難しいか。
評議員	「ささえる」と「こたえる」の将来像を整理することが大事かと思う。
事務局	間接的な表現になってしまうが、「文化芸術を行っている人が増える」=「ささえる」につながるのではないかという意図で設定しているものである。
評議員	文化芸術活動を支えたから創作活動を行う人が増えるという建付けであるということは理解したが、やはり間接的な表現であると少しイメージがしづらいように感じる。項目自体は重なっていると感じるが、「ささえる」、「そだてる」などわかりやすい表現で良いと思うので、将来像のところを再度事務局で検討してもらえるとよいかと思う。 皆が創作活動する訳ではないので、例えば「創作活動をしている人が増える」など、もう 1 歩近い言葉にできると良いのではないか。
評議員	将来像と指標が連動した形になっていけばよい。
評議員	指標は難しい部分もある。 おそらく現在の「ささえる」の指標は、「ホールの利用率」という指標が考えられる。文化芸術活動を行うためにホールを利用した割合をとることで、将来像の「行っています」という部分の数値を間接的に示していると考えるものと思うが、やはり「ささえ

	る」の指標としては少し結びつきづらいところがある。 ただ、一方で数値が取りづらいものもあるので、例えば定性的な指標にすることも1つの手段としては良いのかなと思う。
評議員	将来像の話になるが、5つの方向性の将来像全てが「創作活動を行っています」のように現在形になっているに少し違和感を覚える。 将来像なのであれば、もう少し未来形の文言の方が良いのではないかなと思う。
評議員	「ささえる」は一方的に支えるのではなく、双方 Win-Win の関係で支えあっている状態でないと、持続可能でなくなってしまうので、「ささえる」の将来像は Win-Win の関係が生まれている状態をゴールにしないといけないと思う。
評議員	私自身は「ささえる」として、実際に講習会などをさせてもらうなど支えられた経験がある。そういった「ささえる」活動があることも、文化芸術活動を行うきっかけになると思うので、その観点もあると良いかなと思う。
評議員	「ささえる」のポイントは、「市民・企業・行政などが連携し」という部分かなと思う。文化芸術活動の価値をそれぞれが理解し、文化芸術をみんなで支えあうというのが本来将来像になっていくべきなのかなと思う。将来像の書きぶりが難しい。仮に「文化芸術活動をささえています」としてしまうと、文化芸術活動を支えることが義務のように誤解されるかもしれないので、そこの文言をうまく整理していかないといけない。
事務局	伊藤評議員が仰っていたように、現在形の表現だと、たしかに「今そうになっている」という意味合いに見えてしまうなど感じる。例えば、「2030 年はこうなっている」と題目があって、その下に「創作活動を行っています」みたいな書き方だと、もう少しイメージがしやすいのかなと感じた。
評議員	将来像のところは「創作活動を支える体制ができています」のような、もう少し行政が施策によって達成できるようなものを示すなど、上手く整理ができると良いかなと思う。 文言の部分だけでなく具体的な方策や実効性の部分などを工夫し、それらを反映した素案が次回できるということでもうまく調整してもらえると良いと思う。 資料 2「骨子(案)」について、もう1つ意見を伝えると、今回のビジョンは2期目のビジョンとなるため、1期の成果がこうなっていて、その間に取り巻く環境がこう変化したから2期ではこうするという構成にした方が良いのではないかなと思う。 いきなりビジョンという形だと、少し伝わりづらくなってしまいうように思う。
評議員	「ささえる」という意味で、本ビジョンも含めて、市の計画の表紙デザインについては、大学生にデザインしてもらえると良いのではないかなと思う。大学生は、それを就活の1つのネタとすることで、そこにも1つ Win-Win の関係が築けるのではないかなと思う。
事務局	今回、表紙デザインは市内の美術大学 2 校から公募という形でデザインを募集す

	る予定。現在 4 名の学生からエントリーをしてもらっており、次回の評議会の際には、評議員の皆様にもデザイン案を見ていただき、デザインを決定できればと思っている。
評議員	このビジョンだけでなく、八王子市の他の計画についても学生と連携した表紙デザインにできると良いと思う。
事務局	本課で策定している「はちおうじ学園都市ビジョン」と「八王子市文化芸術ビジョン」は学生に表紙デザインを依頼しているが、その他の計画ではあまり聞かない。他の所管の計画についても、学生に依頼できると良いと感じた。
評議員	学生 CM コンテストで作成される作品も素晴らしいものがたくさんある。こういった作品についても、多くの市民に見てもらいたいので、発信などを通じて支えてもらいたいと思う。
その他	
事務局	会議の要点録はまとめ次第、内容確認を依頼する予定。 確認後、名前を伏せた形で公開する。 次回の評議会は、9 月 16 日(火)午後 6 時から第 5 セミナー室で開催する。
会議終了	